

感染管理システム導入による薬剤耐性（AMR）対策 普及活動の取組

社会医療法人 中央会 尼崎中央病院

庄司浩気 神原雅巳 前田弘美 宇賀治美花 道林伸行 岩井清香 佐々木昇
兵頭英出夫 伊福秀貴

当院は309床、外来500人/日平均、入院360名/月平均で、兵庫県東の玄関JR尼崎駅から徒歩5分の京阪神地区にあり、成人感染症動向を反映しやすい立地にある。2005年4月25日のJR福知山線列車脱線事故では103名の負傷者を受け入れた。その後、当院職員は災害医療にも意識は高く、また、災害医療では感染管理は重要とされ当院では10年以上感染管理に力を入れてきた。当院では「医療関連感染を防止し、感染症で亡くなる人を最小にすること」を活動目標とした。

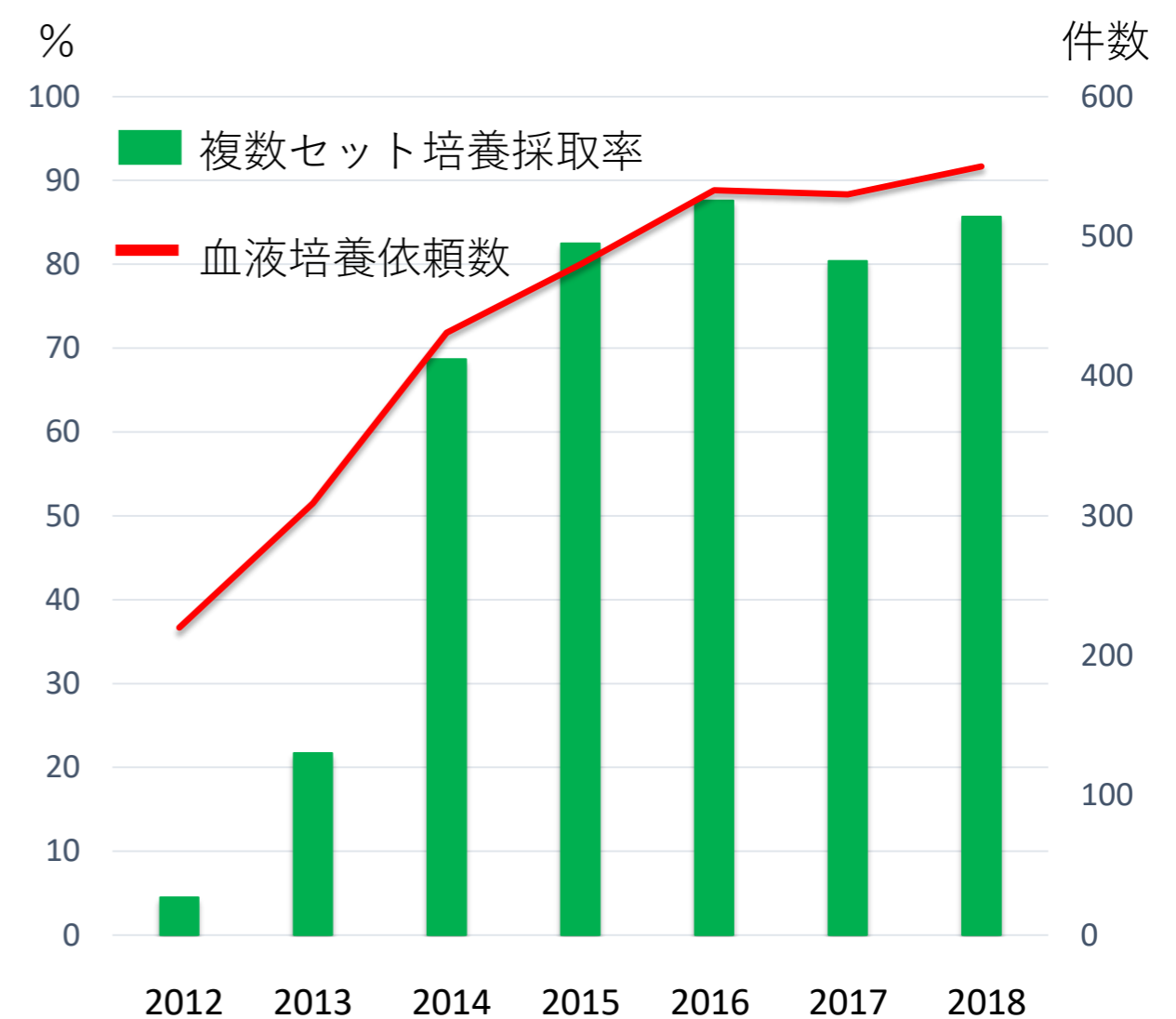
2017年に電子カルテ上でリアルタイムな患者発症表示と自動集計システムを導入し、抗菌薬治療の最適化のために早期介入と感染対策を行った。リアルタイムな患者発生情報の共有と感染管理システムはICT活動効果を高めアウトブレイク抑制、さらに抗菌薬長期投与の管理、リアルタイムな患者発生情報の共有と感染管理システム導入が有用であると考え、今後の対策でも検証を継続している。

AS（Antimicrobial Stewardship）プログラムは抗菌薬治療の最適化のために、広域抗菌薬・抗MRSA薬の投与患者に関して、抗菌薬の種類や用法・用量、治療期間の適切性をモニタリングし、抗菌薬ラウンド、または主治医へのアドバイスをを行っている。

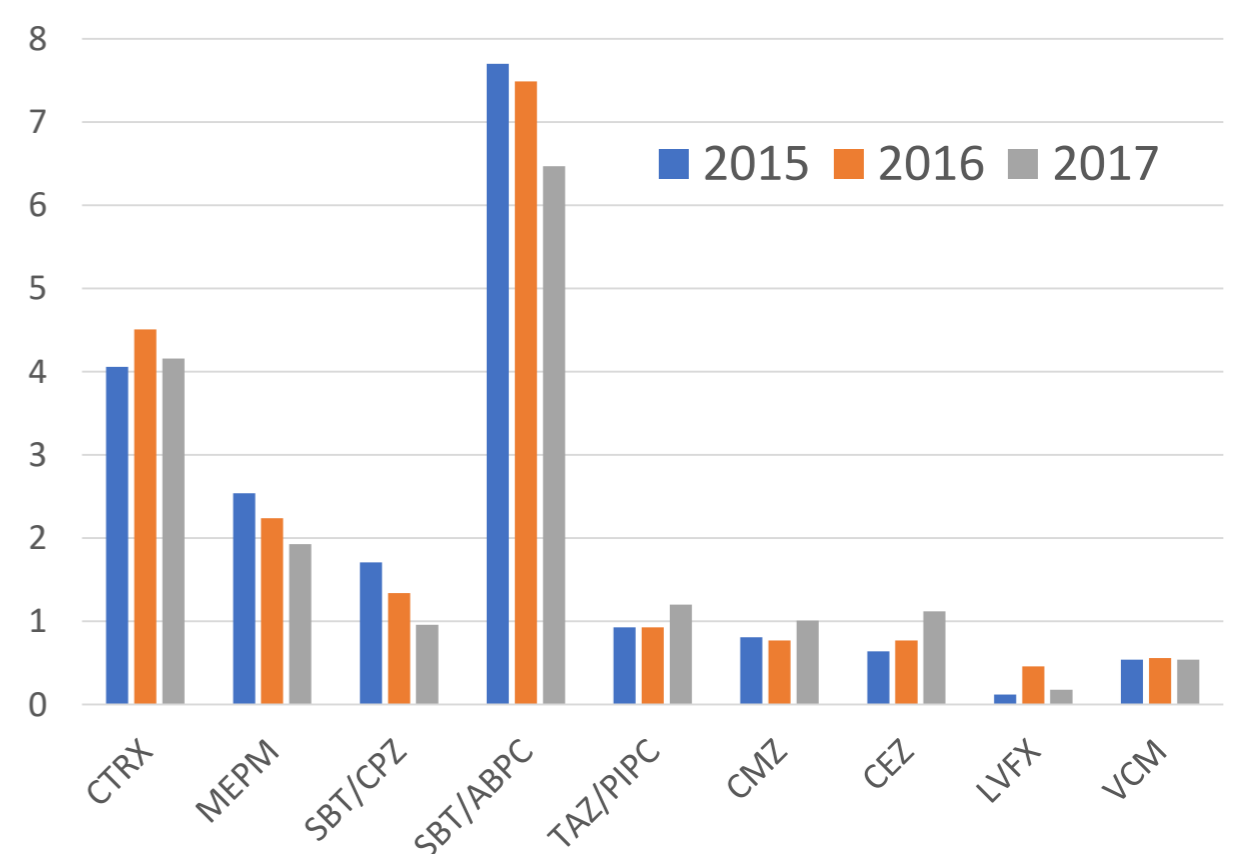
また、抗菌薬使用密度（AUD）の評価を2015年から開始し、メロペネム（MEPM）、スルバクタム/セフォペラゾン（SBT/CPZ）、スルバクタム/アンピシリン（SBT/ABPC）減少率を当院では確認できている。

施設内のアンチバイオグラムの作成、採用抗菌薬の定期的な見直しを行い、必要性の低い抗菌薬に関しては使用中止を指導する。

以上、ASプログラムを積極的に市中病院レベルから抗菌薬の長期投与使用とそれに伴う耐性菌抑制感染対策をできることから始めた。尼中健康講座として年2回、“町の健康相談フェア”を開催し市民へ啓蒙活動を行っており、2014年から参加者数は延べ1285名に達している。また、地域への尼中Timesの年3回の発刊を継続中である。



血液培養検体数の推移



抗菌薬使用密度
(DDD/100 bed-days)